

インターネットのリンクは、画面上でクリックするかコピーしてください。

Facebook はアカウントがなくても、本文はお読みいただけます。最新情報はそちらで。

<https://www.facebook.com/daycaresafety>

- **今後の状況予測**：ひとつの流れとして、「もう大丈夫認知＋対策飽き／ガマンの限界」になっていく可能性があります。「日本では、たいした病気ではない」という世論も根強く、8月中旬以降は新規感染者数が徐々に減っているように見えることもあって、「感染は収まる」（○収束、×終息）、「もう大丈夫」という認知になっていくかもしれません。一方で、もう半年近く対策や「自粛」、ガマンを続けてきたことに対する飽きや不満が育っていることは間違いありません。保護者の中には、仕事や生活の不安が強くなっている人たちも少なくないでしょう。「今まで通りにしろ」「もう対策は要らない」という声が挙がり始める、園に対する八つ当たりが増える、そうした可能性があります。

他方、「終息していない」という認知、不安を持っている人たちも多い。保護者が2極化して、未就学児施設が間にはさまれることになりかねません。

- **問題は差別、誹謗中傷、不安、疑心暗鬼**：「東アジア、東南アジアでは、新型コロナウイルス感染症はたいしたことがない」という話がもしも本当ならば、ありがたいことです。問題は感染症そのものではなく、ここから生じる差別、誹謗中傷、不安、疑心暗鬼です。「死ぬ人もいるし後遺症を残す人もいるけど、それは織り込み済。だから、差別も疑心暗鬼もない」と社会が感じて行動するなら、それでいいのです（インフルエンザでは、差別や疑心暗鬼が起きません。あ、今冬はわかりませんが）。でも、この感染症についてはおそらく、当面はそうならない、ここが問題です。「たかが風邪だ！」と言いながら、差別をするのでは…。

- **100%感染予防と「保育・教育活動の価値」との両立は不可能**：4割が無症状（感染力あり）、4割が軽い症状（発症前後に感染力）という感染症で、主に飛沫・空気感染するのですから、「100%感染予防」は不可能です。

- **園のリーダーシップの使命は職員と子どもたちを毅然と守ること**：感染力等もわからなかった春の時点で、濃厚接触の場である未就学児施設を閉めない決断を国がした以上、リスク判断の責任は園ではなく、保護者にあります。感染のリスクと「預ける価値（就労）」「保育・教育の価値」を天秤にかけるのは、保護者。「預けるけど、絶対に感染させないで」と言われたら、（共感を込めつつ）「皆さん同様、私たちも不安ですから（※）、できる限りの感染対策をしています。でも、この感染症を100%予防することはできませんし、園は濃厚接触の場です。ご理解ください」と毅然と言いましょ。毅然とです。 ※「自分たちも不安なのだ」とはっきり言いましょ。未就学児施設の職員も人間だということを保護者と社会に理解させる必要があります。

- **（毅然の柱＝）謝罪しない**：コロナに関して、謝罪はほぼ必要ありません。感染も本人のせいではない。感染は罪ではない。休園も感染者の責任ではない。リーダーシップが謝り続けていたら、職員も保護者も「感染は悪だ」と思い込んでいきます。「感染隠し」等にもつながります。職員を守ろうと思うなら、毅然として謝らない、です。

学校の部活等で起きた集団感染で謝罪する必要があるのは、「熱中症だと思った」等、検査や対応が遅れたためです。遅れや隠ぺいがないなら、感染そのものは謝罪の対象ではありません。

- **行事（運動会、発表会等）の保護者参加（参観）**：保護者がリスクをわかって登園してきているのですから、子どもがこうむる被害は最小にとどめるべきだと私は考えます。活動はいつも通り、です。では、行事の場合、人数制限をすれば保護者も参加してよい？そこは違うと思います。

もともと保護者の温度差は大きいわけですが、冒頭に書いた通り、極端な2極化さえし始めるかもしれません。園が「強い味方」にしたい保護者は「今まで通りにして」「保護者を参加させて」と言う人たちでしょうか？ コロナは今年度中には「終息」しそうにありませんから、今と同じ状況が卒園・入園式の時期にも続くでしょう。運動会で保護者に対してどのような（毅然とした）姿勢を園がとるのか(どのタイプの保護者を尊重するのか)が今後に影響します。詳しくはこちら(解説とひな型)。

【行事の保護者参加、誹謗中傷、PCR検査対応等、ひな型を集めた目次】

<https://www.facebook.com/103849474593735/posts/163992431912772>

- 「未就学児施設の職員だけが我慢をさせられている」？：いいえ、未就学児施設は、心配を共有しやすい、皆で予防の取り組みをしやすい、良い環境です。保護者の中にも感染する／させるリスクを感じている人は、たくさんいます。でも、その人が勤めている職場、同僚が気にしなかったら、対策のしようがありません。医療施設もスーパーも不安ですが、不特定多数の出入りを規制できません。介護施設は出入りの規制をできますが、入所している人たちがハイリスク群。一方、未就学児は（今のところ）、重症率も低く、死亡率も低いようです。

「怖い。仕事に行きたくない」…、無理に出勤してはいけないと思いますが、考えてみてください。飛沫・空気感染する以上、**感染リスク・ゼロの職場などほとんどない**のです。多少の温度差はあっても、皆が心配している未就学児施設は安心できる環境のはずです。

- **助け合うことで、「自分を守る」「みんなを守る」**に：「家族がPCR検査を受けるから、結果が出るまで担任を代わって」「保護者の〇〇さんの検査結果が出るまで、私、ちょっと遠めにかかわるね。うちには要介護の家族がいるから」…、こうしたことも園ではできます。上のリンク、「ひな型の目次」の中に**「配置が欠けることもあります」と保護者に伝えておく文書**もあります。

お互いに助け合っているという感覚は、「自分を守ることが、みんなを守ることになる」という実感と行動につながります。逆に、「感染しないで！」「飲みに行っちゃダメ！」と職員に言っても反感を買うだけで、リスク行動の抑制にはつながりません。「ダメ」を言っても健康リスク行動が減らないのは、健康心理学の基本です（安全リスク行動は違います）。

- **負えない責任は決して負わない。自治体の責任にできることはすべて自治体の責任に**：国も「専門家」も自治体も責任を逃れようとばかりしているように見えます。負えない責任を園が負ってはいけません。詳しくは、上の「ひな型の目次」の中で**PCR検査に関わる文書（2つ）**をお読みください。

- **オマケ**：マイナスばかりの今だからこそ、プラスに目を向け、小さなプラスを増やしましょう！

Facebook ページ、8月23日の動画配信。短縮URL：<https://bit.ly/31vmcce>